

## 国際居住年記念事業 平成 28 年度「国際居住年記念賞」の受賞者について

国際居住年記念賞は、主として開発途上国等における居住環境問題の改善に貢献された団体に対し、1988 年の第一回授賞以来、主として海外の団体を中心として授賞してまいりましたが、平成 24 年度からは国内の NGO 等団体へ授賞することといたしました。

居住環境の更なる向上と草の根的国際協力活動の推進と発展に資するため、平成 28 年度「国際居住年記念賞」は 7 団体の応募者の中から、国際居住年記念事業運営委員会（委員長：小林重敬氏横浜国立大学名誉教授）において、以下の団体が選考され、授与することが決定いたしました。授与式は第 69 回通常総会(平成 29 年 6 月 15 日)の開催に先立ち、行いました。

### ◎国際居住年記念賞受賞者

特定非営利活動法人 シャンティ山口

<http://www.shanti-yamaguchi.com/>

受賞者の活動概要は以下のとおりです。

1993 年(平成 5 年)に発足した当団体は、タイ国内でも極めて困難な暮らしをしている山岳少数民族の現状に目を向け、不法入国者として居住している集落や強制定住を余儀なくされた村(ホイブム村)の状況調査を開始した。

1995 年(平成 7 年)から本格的な支援を開始し、民族の自立支援事業などの活動を行っている。

自立支援事業においては、女性グループが行う伝統的な刺繍やパッチワークなどを使ったハンディクラフトの製作指導及び販売の支援、伝統文化を次世代の青年たちに継承していくための活動、高齢者福祉、保健衛生知識のワークショップ、環境保全などの実践を踏まえて民族の自立をめざす活動を継続している。

教育支援事業では、子供たちが就学するための奨学金を支給するとともに、子供たちが通学するために設立したシャンティ学生寮を運営している。また、地球環境保全事業では、トイレのない村落を対象にトイレの糞尿(資源)を活用したエコトイレシステムの普及開発を行い、処理の過程で発生したメタンガスは学校の給食の煮炊きに使用するなど有効利用されている。このトイレの普及開発に併せて、地域の保育園や住民を対象とした環境と生活・保健衛生セミナーを行っている。2013 年度(平成 25 年度)から遺伝子

組み換えのトウモロコシ栽培で荒廃した農地を果樹園に転換する活動を続け、住民との協働・努力により、バンコクからの出稼ぎUターン者や成人の若者がこの地で農業後継者となり、世帯・人口が増加している。

2016年度(平成28年度)からは、新たにホイプム村から100km南西の困難な生活を余儀なくされている山岳のホイドウア村を対象に、これまで培った経験を通じて地球環境を重視した活動を開始している。